

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人

中野 稔

様

あて名

〒554-0024
日本国大阪府大阪市此花区島屋一丁目1番3号 住友電気工業株式会社内

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
〔PCT規則43の2.1〕



発送日
(日.月.年) 27. 12. 2005

出願人又は代理人

の書類記号 105183-WO-00

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号 PCT/JP2005/017590	国際出願日 (日.月.年) 26. 09. 2005	優先日 (日.月.年) 24. 11. 2004
-----------------------------	-------------------------------	-----------------------------

国際特許分類 (IPC) Int.Cl. C25D1/00 (2006.01), C25D3/66 (2006.01), B81C1/00 (2006.01)

出願人（氏名又は名称）

住友電気工業株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- 第I欄 見解の基礎
- 第II欄 優先権
- 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- 第IV欄 発明の單一性の欠如
- 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- 第VI欄 ある種の引用文献
- 第VII欄 国際出願の不備
- 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

12. 12. 2005

名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官（権限のある職員） 酒井 英夫	4E	3548
	電話番号 03-3581-1101 内線 3425		

第1欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。

出願時の言語による国際出願
 出願時の言語から国際調査のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
(PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ

配列表
 配列表に関するテーブル

b. フォーマット

紙形式
 電子形式

c. 提出時期

出願時の国際出願に含まれていたもの
 この国際出願と共に電子形式により提出されたもの
 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出されたもの

3. さらに、配列表又は配列表に関するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 3-5, 7-10 請求の範囲 1, 2, 6	有 無
進歩性 (I S)	請求の範囲 8-10 請求の範囲 1-7	有 無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-10 請求の範囲	有 無

2. 文献及び説明

文献1 : JP 07-316817 A (京セラ株式会社) 1995.12.05,
段落【0006】-【0021】

文献2 : JP 2004-084059 A (住友電気工業株式会社) 2004.03.18,
段落【0007】-【0056】

文献3 : TAKENISHI, H. and KATAGIRI, A. Effect of Oxide Ion on
the Electrodeposition of Tungsten in the ZnCl₂-NaCl (60-40mol%)
Melt. Electrochemistry, 1999. Vol. 67, No. 6, pages 669-676

文献4 : JP 2003-213484 A (新日本製鐵株式会社) 2003.07.30,
段落【0005】-【0007】

国際調査報告で引用された文献1の段落【0006】-【0021】には、ダイヤモンド微粒子の空隙中に、タンクステン及びタンクステンカーバイドをCVDによって充填し、緻密化させた超硬質複合部材が記載されている。

請求の範囲1, 2、及び6に係る発明は、文献1に記載されているので、新規性、進歩性を有さない（特に、表1の資料No. 1.4及び1.5を参照）。

請求の範囲3-5、及び7に係る発明は、文献1により進歩性を有さない。
硬質部材の強度を高めるために、密度を高めることや結晶を微細にすることは周知技術であって、文献1に記載された発明においても、本願発明と同様の組成の超硬質複合部材を製造しているのであるから、当該超硬質複合部材の強度を10g/cm³とすること、及び平均結晶粒径を50nm以下とすることは、当業者にとって容易である。
また、使用用途等に応じて、表面を平滑にすることや、マイクロメートルオーダーの形状とすることも、当業者にとって容易である。

請求の範囲8-10に係る発明は、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

第VII欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 8 及び 9 は、明細書によって十分に裏付けされていない。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

国際調査報告で引用された文献2の段落【0007】－【0056】には、溶融塩電
鋳によって、マイクロメートルオーダーの形状を有するタングステンを析出させること
が記載されているにすぎない。

国際調査報告で引用された文献3には、Na、K、Cl、及びZnを含有する溶融塩
浴で、タングステンを析出させることが記載されているにすぎない。

国際調査報告で引用された文献4の段落【0005】－【0007】には、溶融塩浴
を用いて、50～250°CでMg添加亜鉛めっきを行う際に、該溶融塩浴にポリエチ
レンジリコールを添加すると、Mgの析出が促進されることが記載されているにすぎ
ない。